

て難詰せしめた。信綱因つて輕舉を謝し、利常の希望に隨つて代地を興へんことを約したので、利常は駒込郡四萬歩及び本郷郡に接續する幕臣近藤登之助配下の同心屋敷二萬歩を得、而して幕府は牛込郡を尾張侯の有とすることを止め、多數少祿の臣に分割した。この地は後に至るまで清泰院屋敷と稱せられてゐた。

ウシサカ 牛坂 金澤上野町の前通りから若松の方へ下る坂路である。その西北にある馬坂に對する名稱であるともいふ。越登賀三州志來因概覽に、小立野牛坂邊に古墳が多く、その規模大にして庶人の墳墓ではない。この邊中秋弄月の最も勝景であると記する。

ウシサカ 牛坂 石川郡金浦郷に屬する部落。

ウシザキ 牛裂 元和八年持簡頭澤田五郎左衛門配下の足輕小頭神原豐藏に對し、泉野に於いて牛裂の刑を行つたことがある。豐藏は、小姓の候補であつた毛利庄兵衛に懸想して艶書を送つたが、その回答を得なかつたことを恨み、殺害を以て脅迫した罪によるものであつた。

ウシジマ 牛島 能美郡德橋郷に屬する部落。徳治三年五月二日金澤越後守貞顯の下知狀に、『得橋本郷村 地頭丹波掃部助貞高』とあり、又陸奥野田日録文明十九年正月十一日には南禪寺領賀州佐野・牛島村など、見える。

ウシダスケザエモン 牛田助左衛門 前田利長に仕へたが、不屈の仕合あるによつて、利長の命を受けた横山長知の爲に越中守山城で成敗せられた。

ウシツ 宇出津 ツセ 鳳至郡諸橋郷に屬

する部落。承久三年注進の能登國田數目録珠々郡の中に『宇出村拾町七段』と見えるもので、當時は珠洲郡に屬してゐたのであり、文應二年には諸橋六郷目録に加へられて、宇出津と書かれてゐる。宇出津の津は港津の義で後に添へられたものである。能登名跡志に、『此宇出津は本町・新町・山分つゞき有て、其支配違へども皆宇出津といへり。三町にて家數四百軒餘あり。昔は元宇出津とて、地名に成りて田の浦邊にありし也。今の宇出津の地は、天呑の城・柵木の城の間に杉の木原にてありしを、兩城落ちし後、間縁にて便よき所なれば、今の地へ移りしと也。次第に繁昌して、國中一の四十物所にて、毎年春鯨など取れ、大獵至極の地也。』と見える。寛文の頃までの公文書に町とも村とも書かれたが、爾後全く村になつた。宇出津では烏賊黒作・筒鱈・鱈の子・鱈雲子・子籠鱈・筋鱈・鱈切漬・鯨かぶら骨等を名産とした。按ずるに、能登名跡志に珠洲郡宇出の今の地に轉じたるを、柵木城等の陥落した天正以後に在るもの、如く記するは訝かしい。文應中既に津字を添へてゐるのを考ふべきである。↓モトウシツ 元宇出津。

ウシツイセントウ 牛追善塔 慶應三年英米佛の軍艦は相次いで能登所口に入港したが、乗組員の食料に充てる爲、生牛を附近の村落に徴發し、小島村の海岸に於いて之を屠殺した。後村民等その屠殺せられたる畜牛の爲に法會を妙觀院に營み、境外に碑を建て、刻して牛追善塔といつた。その碑今も存して居る。

ウシツクチラリヨウヌエ 宇出津鯨獵圖繪

ウシツクチラリヨウヌエ 宇出津鯨獵圖繪

一册。表題に文化九年申十月鯨捕様等巨細に御尋に付書上申帳とあつて、能登鳳至郡宇出津に於ける鯨獵の模様を藩侯に上申したものと見え、その繪圖三葉が添へてある。

ウシツコウ 宇出津港 鳳至郡宇出津の前面で、港口東南に向かひ、東西三〇〇米、南北八〇〇米、水深一〇米餘。崎山・遠島の兩岬に擁せられて深く鰹入して居り、漁船の北風乃至西風を避くるに最も適する。

ウシツシンマチ 宇出津新町 ウセツシンマチ 鳳至郡諸橋郷に屬する部落。元和三年宇出津村續中島に新町の創建を願したが、その許可の御印物に宇出津新村とあつたに拘らず、所方にては新町と唱へ來た。寛文十年の村御印にも宇出津町と一通になつて居り、その文書の内に新町といふことが見える。

ウシツヤマブギヨウ 宇出津山奉行 鳳至郡宇出津に在つて山林の事を管理した職名。承應二年近藤治右衛門・富田治太夫の命せられたのがその始であらう。萬治二年葛野藤太夫亦命ぜられて三人となつたが、延寶年間以來は二人宛連綿した。

ウシツヤマブン 宇出津山分 ウセツヤマブン 鳳至郡諸橋郷に屬する部落。もと宇出津の内であつたが、町分と山分と免相を異にしたから、明暦二年二ヶ村に分離せられたものである。

ウジテンジンシヤ 宇治天神社 珠洲郡宇治に鎮座する。式内等舊社記に、『宇治天神社。三崎郷宇治村鎮座。稱天神宮。有來歴一舊社也。』と見え、能登名跡志には、『宇治村氏神は天神の宮とて、天よりくだり給ひて、本地は觀音也。』とある。

ウシツクチラリヨウヌエ 宇出津鯨獵圖繪

ウシドウ 牛堂 石川郡畝田に在る。寶永誌にこの村領に牛堂といふ社があつて、神體は大威徳明王である。同村領に臺所橋があるのも、大威徳橋を誤つたものであると記する。牛堂は初め宮腰往還臺所橋附近の田の中に在つたが、文政五年村内の社地に移した。

ウシノシタオホバンキン 牛舌大判金 ↓キンカ 金貨。
ウシノシタコバンキン 牛舌小判金 ↓キンカ 金貨。
ウシノシタモチ 牛舌餅 古へ白山比咩神社にて正月元日及び七日の大祭その他に奉獻した餅で、牛舌判金の如き形状に薄く延べたものである。一に花びらともいつた。これは好古日録に、世俗靈神に供する黄金餅といふものがあると書かれてゐるものと同種と見られる。

ウシノツメザカ 牛ノ爪坂 鹿島郡能登島に在る。能登路記に、『島地別所村へ行く山路に、牛の爪坂といふ所あり。此所に蝦夷の大男の手の跡として石あり。』とある。
ウシノヤタウゲ 牛ノ谷峠 江沼郡熊坂の小字北原から、越前坂井郡牛ノ谷に越える峠。
ウシノヲ 牛尾 ウシノウ 鳳至郡下町野郷に屬する部落。

ウシホツ 潮津 江沼郡北濱に屬する部落。延喜式神名帳に、潮津神社をシホツと傍訓するから、邑名も古へシホツであつたらうが、今はウシホツと言つてゐる。江沼志稿に、この村領に津葉某の居跡があるとし、茂恐紀聞にはそれを潮津領のカミデといふ所、湖邊の平山であるとして居る。
ウシホツエキ 潮津驛 ↓シホツエキ 潮

ウシホツエキ 潮津驛 ↓シホツエキ 潮